

Daishin Kashimoto & Rafał Blechacz Duo Recital

榎本大進 & ラファウ・ブレハッチ

デュオ・リサイタル



夢の共演が実現!

ヴィルトゥオーゾ2人による



第42回 名屋 クラシックフェスティバル

モーツァルト: ヴァイオリン・ソナタ 第17番 ハ長調 K.296
ベートーヴェン: ヴァイオリン・ソナタ 第7番 ハ短調 op.30-2
ドビュッシー: ヴァイオリンとピアノのためのソナタ
武満徹: 悲歌
フランク: ヴァイオリン・ソナタ イ長調

W.A.Mozart : Sonate for violin and piano No.17 K.296
L.v.Beethoven : Sonate for violin and piano No.7 op.30-2
C.Debussy : Sonate for violin and piano
T.Takemitsu : Elegy
S.Franck : Sonate for violin and piano

2024. **12.20** (金) 18:45開演
(18:00開場)

愛知県芸術劇場コンサートホール

S¥12,000 A¥10,000 B¥8,000 C¥6,000 学生(抽選)¥2,000 (税込)

学生券 26歳以下学生証提示
中京テレビクリエーションHPよりエントリー後抽選。詳しくは<https://cte.jp/42cf/>をご覧ください。
【一般席と並びご購入されたい場合】公演1ヶ月前に残席がある場合に限り、並びでご予約いただけます。
詳しくは中京テレビクリエーションまでお問い合わせください。

文化庁 子供文化芸術支援事業

プレイガイド

<https://cte.jp/42cf/>
Chuチケ:052-308-8282 (平日11:00~17:00)

チケットぴあ: <https://t.pia.jp/> (Pコード:268-126)
芸文プレイガイド:052-972-0430

公演に関するお問い合わせ

中京テレビクリエーション ☎052-588-4477 (平日11:00~17:00)

※曲目等変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。
※未就学児のご入場はご同伴の場合でもお断りいたします。

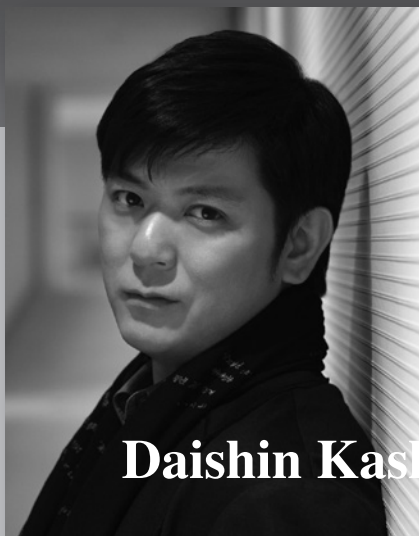
主催: CHUKYO TV



文化庁
Agency for Cultural Affairs, Government of Japan
劇場・音楽堂等における
子供舞台芸術鑑賞体験支援事業

ベルリン・フィルの第1コンサートマスターを務める日本が誇る樫本と、
第15回ショパン国際ピアノ・コンクール(2005年)で、優勝と同時にすべての賞を総なめにした
「同世代最高のショパン弾き」と称されるワルシャワ生まれの逸材ブレハッチ。
ノーブルな演奏家二人が、モーツァルト、ベートーヴェン、ドビュッシー、フランクの“王道”ソナタを
一晩で披露する魅惑のステージ。

日本の聴衆は初めて耳にするこの組み合わせ、
どんな魔法や化学反応を巻き起こしてくれるのか、乞うご期待!



©Keita Osada

Daishin Kashimoto & Rafał Blechacz



©Marco Borggreve

樫本大進 (ヴァイオリン) Daishin Kashimoto, violin

ロンドン生まれ。1990年、第4回パッサ・ジュニア音楽コンクールでの第1位を皮切りに、1996年のフリッツ・クライスラー、ロン＝ティボーの両国際音楽コンクールでの第1位など、5つの権威ある国際コンクールにて優勝。ドイツを拠点にソリストとして世界の舞台上で演奏する傍ら、2010年に正式就任したベルリン・フィルハーモニー管弦楽団第1コンサートマスターを務める。

3歳よりヴァイオリンを恵藤久美子に学ぶ。5歳でNYに転居し、7歳でジュリアード音楽院プレカレッジに入学、田中直子に師事。11歳の時、名教授ザハール・ブロンに招かれリュエベックに留学。20歳よりフライブルク音楽院でライナー・クスマウルに師事、グスタフ・シェック賞を受賞し修士課程を修了した。

これまで、ロリン・マゼール、小澤征爾、マリス・ヤンソンス、ジョン・ミンフン、パーヴォ・ヤルヴィなどの著名指揮者のもと、国内外のオーケストラと共演を重ねるほか、室内楽にも意欲的に取り組み、マルタ・アルゲリッチ、ギドン・クレーメル、ユーリ・バシュメット、ミッシェル・マイスキー、エマニュエル・バユ、ポール・メイエなどの著名ソリストと共演。使用楽器は、株式会社クリスコ(志村晶代表取締役)から貸与された1744年製デル・ジェス「ド・ベリオ」。

2007年からは、自身が音楽監督となり兵庫県赤穂市・姫路市を舞台に室内楽の国際音楽祭「ル・ポン(Le Pont)」を開始。フランス語で「架け橋」の意を持つ名前を冠する本音楽祭は、「音楽を架け橋に、人と人のきずなを大切に、平和で幸せな世界を創りたい」という樫本の願いを受けて開催され、彼の声かけで世界一流の音楽家が毎秋参加し話題を呼んでいる。

2010年、日本人として史上2人目のベルリン・フィルハーモニー管弦楽団第1コンサートマスターに正式就任。オーケストラの顔として活動しているほか、本拠地ベルリンでの定期演奏会やヨーロッパ、アジア・ツアーでの演奏会などでソリストとしても共演している。2023年、細川俊夫より捧げられた委嘱新作「ヴァイオリン協奏曲『祈る人』」を、パーヴォ・ヤルヴィ指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団と世界初演し、同年夏にセバスティアン・ヴァイクレ指揮読売日本交響楽団と日本初演を行った。

主なCDに、2014年にワーナー・クラシックスから世界リリースもされた、コンスタンチン・リフシツとの「ベートーヴェン：ヴァイオリン・ソナタ全集」など。

1995年アリオ音楽賞、1997年出光音楽賞、モービル音楽賞、1998年新日鉄音楽賞フレッシュアーティスト賞、平成9年度芸術選奨文部大臣新人賞、2011年兵庫県文化賞、チェンジメーカー2011クリエイター部門、2017年姫路市芸術文化大賞、ドイツに於いてはシュタインゲンベルガー賞、ダヴィドフ賞を受賞。2019年12月より、HiFiオーディオ製品ブランド「VELVET SOUND」(旭化成エレクトロニクス)公式アンバサダー。

TBS「情熱大陸」、NHK「プロフェッショナル～仕事の流儀」など、多くのメディアに取り上げられ、クラシック音楽の最高峰で活躍するヴァイオリニストとして常に注目を浴びている。

ラファウ・ブレハッチ (ピアノ) Rafał Blechacz, piano

2005年、第15回ショパン国際ピアノ・コンクール優勝。マズカ賞、ポロネーズ賞、コンチェルト賞、ソナタ賞(クリスチャン・ツイメルマンにより創設)、聴衆賞と全てを同時受賞。同世代で最高のショパン弾きと称される。

レパートリーはバッハ、モーツァルト、ベートーヴェン、リスト、ブラームス、ドビュッシー、シマノフスキと拡大を続け、その中からドイツ・グラモフォンより多くのアルバムがリリースされた。この間の活動が高く評価され、2014年には「ピアノのノーベル賞」とも称されるギルモア賞(アメリカ)を受賞。

1985年ポーランドのナクウォ・ナデ・ノテシオン生まれ。5歳からピアノを習い始め、ビドゴシチ市のルービンシュタイン音楽学校(ヤチュク・ポランスキ教授)を経て、ナワヴェジスキ音楽大学にてカタリーナ・ポボヴァ＝ズイドロン教授に師事、2007年に卒業。在学中より、第13回ヨハン・セバスチャン・バッハ・ポーランド全国コンクール第1位およびグランプリ(1996年)、第5回A. ルービンシュタイン国際青少年ピアノ・コンクール第2位(2002年、ビドゴシチ)、第5回浜松国際ピアノ・コンクールの1位なしの第2位(2003年)など数々の賞を獲得。

ショパン国際ピアノ・コンクール優勝後は、ウィーン楽友協会、ベルリン・フィルハーモニー、コンセルトヘボウ、サル・プレイエル、ロイヤル・フェスティバル・ホール、ミラノ・スカラ座など世界の名だたるホールで演奏活動を始め、ザルツブルク、ヴェルビエ、ルール・クラヴィア、ギルモアといった主要音楽祭にも招かれている。デユトワ、ゲルギエフ、ハーディング、P. ヤルヴィ、ルイジ、ナガノ、ネルソンス、プレトニョフ、ヴィット、ジンマンなど世界的な指揮者と共演。

2006年よりドイツ・グラモフォンと専属契約。ポーランド人演奏家として、クリスチャン・ツイメルマンに続く2人目となった。初のCD「ショパン：前奏曲集」でエコー・クラシック賞、ディアパソン・ドール賞を受賞。その後、2010年にはショパン生誕200年を記念してセムコフ指揮ロイヤル・コンセルトヘボウ管と録音したショパンのピアノ協奏曲第1番、第2番でドイツ・レコード批評家賞を受賞。「ドビュッシー／シマノフスキ」ではエコー・クラシック賞、グラモフォン誌月間ベスト・アルバム、2013年クラシック音楽の最優秀録音としてフレデリック賞(ポーランド)を授与された。2013年の「ショパン：ポロネーズ集」は発売と同時にゴールド・レコードに輝き、再びドイツ批評家賞を獲得。2017年には、J.S.バッハの作品集がリリースされ、話題となった。

批評家たちからはこれらの芸術的功績を讃えてキジアナ音楽院国際賞(イタリア)を2010年に贈られる。2015年、ポーランド共和国大統領メダルであるポーランド復興勲章カヴァレルスキ十字勲章を授与された。